

楽 座 新 聞 目 次（活動報告会発表順）

プロジェクト名（チーム名）	区分（継続年度）
 あかりんちゅ（あかりんちゅ）	S 継続（2009 年～）
 未来看護塾（未来看護塾）	継続（2004 年～）
 BAMBOO HOUSE PROJECT（BAMBOO HOUSE PROJECT）	継続（2016 年～）
 とよさと快蔵プロジェクト（とよさと快蔵プロジェクト）	継続（2004 年～）
 信・楽・人 -shigaraki field gallery project-（信・楽・人 - shigaraki field gallery project-）	継続（2007 年～）
 政所茶レン茶㊞（政所茶レン茶㊞）	継続（2013 年～）
 障がい児・者、自立支援・共生社会プロジェクト（ボランティアサークル Harmony）	継続（2004 年～）
 地域博物館プロジェクト（スチューデント・キュレイターズ）	継続（2012 年～）
 座・沖島（座・沖島）	継続（2016 年～）
 かみおかべ古民家活用計画 -SLEEPING BEAUTY-（かみおかべ古民家活用計画 -SLEEPING BEAUTY-）	継続（2012 年～）
 たのうらまちづくりプロジェクト（田の浦ファンクラブ学生サポートチーム）	継続（2013 年～）
 とよさらだプロジェクト（とよさらだ）	継続（2009 年～）
 木興プロジェクト（木興プロジェクト）	継続（2011 年～）
 人と環境を救う雨水タンク（廃棄物バスターズ）	継続（2005 年～）
 木之本こじへいプロジェクト（木之本旧麴屋こじへい改修プロジェクト）	新規
 フラワーエネルギー「なの・わり」（フラワーエネルギー「なの・わり」）	継続（2005 年～）
 おとくらプロジェクト（おとくらプロジェクト）	継続（2010 年～）
 内湖の再生と地域の水辺コーディネート（滋賀県大生き物研究会）	継続（2011 年～）
 男鬼楽座（男鬼楽座）	継続（2004 年～）
 タクロバン復興支援プロジェクト（タクロバン復興支援プロジェクト）	継続（2015 年～）
 Taga-Town-Project（Taga-Town-Project）	継続（2004 年～）
 たけともミライ（たけともミライ）	継続（2012 年～）

※プロジェクト区分について
新規プロジェクト：平成 16～28 年度に、近江楽座の助成を受けたことがないチームによる取り組み
継続プロジェクト：平成 16～28 年度のいずれかに、近江楽座の助成を受けたことがあるチームによる取り組み
S プロジェクト：「近江楽座」での実績をもとに、さらなるステップアップをめざすプロジェクトで、活動資金の助成を必要としないもの

楽 座 新 聞 ら く ざ し ん ぶ ん

平成 29 年度
近江楽座活動報告会号

近江楽座の 22 のプロジェクトが活動をまとめた新聞です。
これらの新聞・ポスターは、基本的にレイアウトが自由なので、チームの個性がそのまま紙面に出的ていることも特徴です。楽座メンバーの自信作“らくざしんぶん”をぜひご覧ください。

2017 年度 近江楽座 活動報告会 ＜プログラム＞

2018 年 4 月 21 日（土）9:30～16:00
滋賀県立大学 ナシェリア（人間看護学部棟食堂）

1. 挨拶・プログラム説明

2. 活動発表

【パート 1】 9:45 ～ 11:10
＜地域に学生がいること！＞

■ 司会進行： 山崎泰寛 先生（環境科学部准教授）
1. とよさと快蔵プロジェクト／2. 信・楽・人／3. 座・沖島／4. かみおかべ古民家活用計画／5. タクロバン復興支援プロジェクト／6.Taga-Town-Project／7. たけともミライ
🌱 地域ゲスト：岡村博之さん（NPO 法人とよさとまちづくり委員会）、奥田泰央さん（窯元散策路の wa）
小川文子さん・富田まさ美さん・本田由美子さん（沖島離島振興推進協議会）、田中正雄さん（滋賀県愛瓢会）、
石丸茜さん（多賀町教育委員会事務局）、平井晋さん（有限会社 A. SITE）

【パート 2】 11:20 ～ 12:45
＜学生だから出来ること！＞

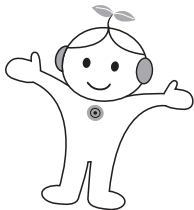
■ 司会進行：柳澤淳一 先生（工学部教授）
1. 未来看護塾／2. ボランティアサークル Harmony／3. スチューデント・キュレイターズ／4. 田の浦 FC 学生 ST／5. とよさらだ／6. 木之本こじへいプロジェクト／7. なの・わり
🌱 地域ゲスト：橋本宏美さん（彦根市立病院）、田井中雅子さん・藤堂裕美さん（NPO 法人障害者の就労と余暇を考える会メロディー）
川島光男さん（白谷荘歴史民俗博物館）、森久仁彦さん（エコファーマー）

【パート 3】 13:45 ～ 15:35
＜いろんな人と
コラボすること！＞

■ 司会進行：印南比呂志 先生（人間文化学部教授）
1. あかりんちゅ／2.BAMBOO HOUSE PROJECT／3. 政所茶レン茶㊞／4. 木興プロジェクト／5. 廃棄物バスターズ
／6. おとくらプロジェクト／7. 滋賀県大生き物研究会／8. 男鬼楽座
○学生委員会より報告 B プロジェクト「県営開出今団地の空き住戸を活用した活動拠点づくり」
🌱 地域ゲスト：稲岡賢純さん・寺出修明さん（滋賀教区浄土宗青年会）、浅井基義さん（菩提寺まちづくり協議会）
丸山幸代さん（茶縁の会）、加藤義朗さん（おとくら家主）、魚住俊介さん（愛西土地改良区）

3. 活動写真 AWARD 発表と
全体総括

おにぎりや特性スープ、飲み物等も用意しています！！



March 31, 2017

AKARINCHU NEWS

あかりんちゅとは

あかりんちゅとは、寺社などからやむなく廃棄されてしまう蠟燭、通称「残ろう」を回収・再利用し、手作りキャンドルの販売、キャンドルナイト・キャンドル作り教室の開催を行っている。モットーは「エコでスローな夜を。」

OKB street 4th Anniversary Candle Night

12月8日に岐阜県大垣市のOKB street 4周年記念イベントにてキャンドルナイトを行いました。嬉しいことに、あかりんちゅとはOKB street が出来て以来、4年間ずっと呼んでいただいています。毎年の規模は1,000個。メンバー全員が授業後ということで到着後すぐに並べ始めたんですが、その際、大垣共立銀行の方が何人も来て協力してくださり、おかげでセレモニー開始時刻の18時に間に合うことが出来ました。大きな商店街ということで、見に来る方も多く、私たちにとっても充実したイベントでした。準備中は雨が降っていたのですが、並べ終わるころには雨は止み、タイルが濡れ、ろうそくの光が反射し、美しい景色が広がっていました。



地域の声

先輩達が繋いでくれたあかりんちゅを皆で育てていき、後輩達と共有し、継続する事の大切さも感じ、皆さんで力を合わせ「灯り」で過ごす『エコでスローな夜』をより一層広めていってほしいと思います。

(浄土宗青年会さんのコメントより抜粋)

けっこう身近なものでこんだけ手作りのロウソクってつくれるんやね。(体験教室に来られた親御さん)

福祉の方にも関わっているのがすごい。

(キャンドルナイトに来られたお客様)

あかりんちゅ自慢！

あかりんちゅの自慢といえば、まずはSプロジェクトであること。毎年の黒字経営が自慢です。基本的にはイベントを行った際の依頼料と販売の売上金で活動しています。

もう一つは県内外、どこへでも行って活動できること。材料は自分たちが全部持っていけばいいし、体験教室は平らなところ(机とか)とコンセントが1つあれば活動できます。

二つ目はリサイクル活動だけでなく、福祉活動も行っていること。キャンドルナイトの蠟燭の製造は福祉団体に材料を渡し、委託しています。

成果と課題

成果といえば、まずは引継ぎ当初の1回生3人から全9人にまでメンバーを増やしたこと。そして今はしっかりと軌道に乗せて活動できたこと。私たち、とくに幹部3人はそう感じています。ただ、課題も多く見つかっており、宣伝不足により、外部の依頼が少なかったことがその一つです。今後は受け身ではなく、もっと積極的に動いていこうと思います。

未来看護塾

チームのビッグニュース！

9月22日(日)に宮城県南三陸町で

「いきいき健康交流広場」を開催しました。

未来看護塾では2015年より田の浦地方の方々との交流を「させて頂いています。今年度で6回目となりました。今年度は、昨年と同様に足浴、ハンドマッサージ、伊丹スーパの提供、また血圧測定、体重・身長測定に加えて、看護学生と一緒に笑いヨガやズンドコ体操を行ってもらい体を動かしました。また学生によるギターで現地の民謡の演奏も行い、皆で和気藹々とした雰囲気の中で合唱し、祖父母と孫のような温かな時間を過ごしました。地域の方々の笑顔も沢山見られ、学生も地域の方も充実の時間を過ごすことが出来ました。様々な支援がある中で、看護学生だからこそ取り組むことが出来る支援を提供することが出来る。この学びの多いイベントを今後も継続していきたい。

プロジェクト紹介

未来看護塾では、地域の人々と共により良く生きていくことを目指し、医療現場や地域で働く看護職、ボランティアの人々との交流を通して、「未来看護のあり方」を考えています。活動内容としては、彦根市立病院の小児科病棟で子どもたちと遊んだり、緩和病棟でティササビスを行ってコミュニケーションをはかっています。NPO法人ぽぽハウスでは、障がいのある子どもたちと一緒に外出するなどのイベントに参加しています。また彦根私立とんぐり保育園では園児たちとの遊びの中で、乳幼児の発達段階を実際に触れ合うことで感じています。未来看護塾のメンバー同士のミーティングの場を持ち、活動の振り返りを行っています。



地域の声

未来看護塾の皆さんには地蔵盆で子どもたちと遊んで下さったり、防災訓練では先生たちと一緒に車椅子での移動の仕方や包帯法など教えてもらったり、本当にありがたいです。これからもどうぞよろしく願っています。

野瀬町子ども会会長 尾田清美さん

指導教員の声

未来看護塾は、結成以来1年間途絶えることなく、「近江楽座」のプロジェクトチームとして活動を継続しています。

少子高齢社会の今、地域では高齢者さんや子育て中のお母さんたちが心と身体の健康について相談できる仲間をますます求めておられます。また、いつ起こるかわからない災害への対策をはかる必要もあります。そのためにも、地域のネットワークをさらに拡大していくことが大切です。未来看護塾は、地域の皆さまのなかに入り、その人らしく心も身体も健康にいきいきと生活していくことを支え続けます。そして、地域の皆さまの地域課題を少しでも解決できるよう、これからも地域の皆さまの支えのなかで、さまざまな活動を企画し取り組んでくれることと思います。

病院やNPOぽぽハウス、保育園などでの定期的な活動はもろんのこと、「生き生き健康支援活動」における健康チェックやハンドマッサージ、足浴の提供などを実施し、地域住民の心と身体の健康、ネットワークづくりを目ざして日々奮闘しています。ピバシティ彦根における「応援生き生き健康生活」では卒業生たちの協力も得て、防災・健康イベントを毎年行っています。被災地である宮城県南三陸町における健康交流活動も継続しており、学生たちは被災地の方々と笑顔と元気を交換し合っています。

このような「近江楽座」の活動は、地域課題の解決とともに、学生の自ら学ぶ力、それぞれの専門分野への興味・関心や知識・技術を高めるものであり、教育的な効果も大きいと考えています。各プロジェクトにおける学生間の縦と横のつながりの関係性はもちろん、地域住民との関係性など、自ずと社会性やコミュニケーション力の向上にもつながります。また、悩み試行錯誤を重ねながら企画実施する中で、実行力と豊かな感性をも育んでいます。

学生の教育効果と地域貢献の両者が結びついた「近江楽座」、そして「未来看護塾」の益々の発展と継続を望むとともに、これからも支援していきます。

人間看護学部 伊丹君和



ちょっときいてよ！プロジェクト自慢



私たち看護学生は、日頃は学校の講義を受け、年に数回の実習で看護について学んでいます。1、2回生は年に一回しかなく、なかなか自分の目で現場を見ることができません。未来看護塾の活動の場は地域から病院まであり、定期活動でも患者さんと関わるといって、看護学生にとってたいへん貴重な経験ができます。未来看護塾での経験は実習で活かすことができ、また実習での経験は未来看護塾で活かすことができます！そのため現在の学習にも将来の進路のためにも必ず役立ちます！

1年間の活動を通じた成果と課題

1月に開催されたピバシティ彦根でのイベントでは、「1年生が学びの目的をしっかりと持って参加することが出来た。さらに未来看護塾の教諭や卒業生と共にイベントを実施できたため、看護職としてのコミュニケーションの取り方や、専門性の高い知識や技術を間近で学ぶことができた。このように縦のつながりを活かした活動も行うことができた。1年を通して最も大きな事業であった田の浦生き生き健康広場では、学生が主体となり、当日の活動を企画し、皆で協力し、成功に導くことが出来た。当日実施する看護的なケアの技術向上のために、皆で練習を行った。さらに、下級生と上級生が一体となって、看護学部で得た学びを活かしながら健康維持・向上に向けた取り組みを自分たちで考え実施することが出来た。そのため、自身で物事を考える企画力や実行力、主体性、協調性などの力をそれぞれが伸ばす事が出来たと考える。滋賀とは遠く離れた田の浦という被災地で生活されておられる現地の方と交流させて頂くことで、震災から時間が経過した今そこに住む方々が健康に生き生きとした時間を過ごしていきたいと考える。

課題としては、毎年挙げられているように参加率の減少がみられたことだ。対策として、積極的にミーティングやLINEなどの連絡ツールで声をかけ、多くのメンバーに声をかけ、参加する生徒が偏らないよう心がけた。また、一度も活動に参加したことが無い生徒が参加しやすいように、初活動の際はコアメンバーと一緒に活動を行うようにした。また全部の活動に参加していないメンバーには、他の活動にも更に味を持ってもらうように働きかける、新しい活動を考える、SNSで情報を共有するといったことを今後も継続して力をいれて行っていく。活動することの意義を所属メンバーに理解してもらい、地域で活動することで得られる学びを獲得し、今後には活かされる経験が出来るような参加へのきっかけ作りを行っていく必要があると考え

BAMBOO HOUSE PROJECT

発行日：2018年3月31日

この写真は、今年の春WSで改修したバンブーハウス1号の新たに生まれ変わった姿である。

どんな活動？

・BAMBOO HOUSE PROJECTとは全国的に問題となっている日本の放置竹林、ここ滋賀県湖南市の放置竹林もまた、同じ問題を抱えていた。鬱蒼とした竹林は不法投棄のゴミで溢れ、やがて近隣の住宅街にまで竹が侵入し、地域住民の悩みの種になっていた。そこで、菩提寺まちづくり協議会から当指導教員の陶器浩一教授のもとにこの竹林をこどもたちが集まる場所に依頼があった。

こうして、2012年から「バンブーハウスプロジェクト」が開始した。当初は湖南市の助成制度である「きらめき湖南」の中に組み込まれ、3年計画であった。プロジェクトの目的は、竹林整備を通して、地域住民が触れ合える空間や機会をつくることである。この2012年～2015年の3年間の間に、菩提寺竹林の全体計画を行い、地域の人々が交流できる場を整えた。よって、今では荒れ果てた竹林が放課後にこどもたちが遊びにきたり、近所の親子が散歩にきたり、公園のような場所になった。春にはたけのこ掘りのイベントが行われるようになった。

しかし、竹林は毎年の定期的な伐採と公園のメンテナンスが必要不可欠であり、地域交流という点からも長期的なスパンで今後も関わっていくことが望ましいと考えられる。また、今までの活動が菩提寺の甲西北中学校に認められ、中学校の総合学習の時間をお借りして、共同で竹林整備を行えるようになった。地域と大学での竹林整備のサイクルと地域交流の継続的なあり方を模索できたと考える。

時を刻む竹古龍

バンブーハウス1号の再構築



今回の年から、新たな試みとして、竹建築の循環を考え、解体・再構築を行った。今年バンブーハウス1号を始め「竹の庭」の大きな転換期となった。特に大きな変化として、バンブーハウス1号の屋根と床を解体しながらも、新たに再構築することで、竹林浴ができる展望台へと役割を変化させた。十二月から夏に使用する竹の切り出しや設計に必要な竹林の実測を事前に行い、竹建築を解体しながら再構築するための準備も万全に行えた。今後は、1号は解体に向かいながら、その場所を今後どういった場所へ変化させるのか、他の竹建築をどのタイミングで解体し再構築するのか地域の方々と共有しながら検討し、変化もあわせて「竹の庭」全体の姿を計画していきたい。

今年度も地域の方々と学生が協力し合い、無理なく夏を行うことができた。竹建築は姿・形は変わっていくが、「竹の庭」は地域の方々に寄り添いながら今後も続いていくように願う。

地域×子ども×学生 地域に愛される為に

甲西北中学校との合同竹林整備



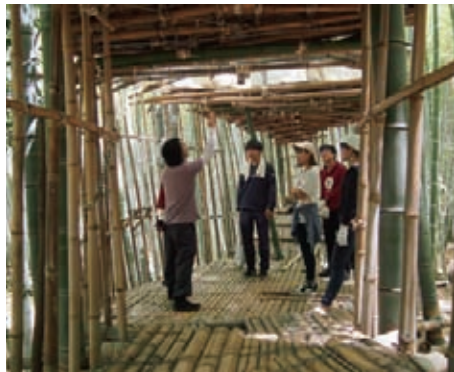
今年で2年目となる甲西北中学校との合同竹林整備を、昨年とは時期は異なるが、3月中旬に実施された。中学生にBAMBOO HOUSE PROJECTの活動と「竹の庭」について知ってもらい、竹林整備を通して地域の人々にとって愛着ある場になるように努めた。竹林整備を一緒に行っていく中で、「また遊びにきたい」「次も手伝いたい」などという声があり、多くの中学生に愛着を持ってもらえたといえる。

竹林作業を終えて

今年、「竹林作業を終えて」と題して、中学生に活動の感想文を書いてもらった。各々が様々な事を感じながらも、地道な作業を続けていく難しさについて触れる中学生が多く感じた。この活動を続けていくためには、彼らにこの「竹の庭」を好きになってもらう事が重要である。彼らが大人になり、その子ども達にこの場が引き継がれてゆく為にも、今後活動も継続して行っていきたいと考える。



竹林を巡る「竹の庭」に行こう



「竹の庭」を維持していく為には、地域の皆様に愛される場所となることが重要である。そこでBAMBOO HOUSE PROJECTをより多くの人に知ってもらうと、甲西北中学校の中学生を中心に、「竹の庭」竹林見学会を開催した。地元の家族連れや、この活動に興味を持った他大学の学生が「竹の庭」の見学・活動体験を行うことができた。

来年度への課題

この見学会は「竹の庭」について一緒に竹林整備を行う中学生に興味を抱いてもらうことを目的としていたが、中学生の参加が見られなかった。次は告知方法を工夫し、竹林整備に向けた良い機会になるよう努めたい。

身近な環境問題を知る

地域を知り、地域で学ぶ



「環境問題は、私たちが生活している身近なところに潜んでいるのです。」中学生の多くは、自分たちが暮らす学区の中にバンブーハウスがあることを知らなかった。彼らは地域の環境問題に取り組みBAMBOO HOUSE PROJECTを知り、「竹の庭」で整備作業を行った。ただ作業するのではなく、地域の環境問題を通じて、自分たちが社会とどう関わっていくのか考える良い機会となった。

地域の方からの声

滋賀県立大学の方々が、菩提寺の竹林を整備していただき6年が経過しました。この間バンブーハウスの建設をはじめ、竹のトンネル、ブリッジ、スクリーン広場、遊具等多くの施設を建設してくださいました。今年はいこれらの施設の安全面を主体とした保守管理を行っていただきました。竹林が地域住民の憩いの場に生まれかわり、季節には自治会単位でタケノコ掘りを楽しみ、地域住民の絆づくりに役立っています。これからも、継続してこの事業に取り組んでいただければ嬉しく思います。

菩提寺まちづくり協議会 地域活性化委員会
副委員長 保田芳利

ビッグニュース！！

私たちは 14 年もの間、継続していくつもの古民家を改修してきました。
その中には学生たちが実際に住まえる古民家シェアハウスもあります。
しかし改修したのはずいぶん過去のこと…
実は誰も住んでいないシェアハウス、「おやえさん」があるのです。
これでは本末転倒だ、ということで今年度はおやえさんを大幅リニューアル。
より住みよくし、新しい入居者が現れるように改善しました。
期間は1年間。夏休みの間に合宿を行い、授業が始まれば毎週土日に改修を続けました。
建築学科やデザイン学科の学生が多いこともあって改修作業は連日大盛り上がり！
特に左官作業は人気があって楽しく終えることができました。



ちょっと聞いてよ

プロジェクト自慢

私たちは数々のイベントに関わっています。町のイベントに参加したり、自分たちで企画したり… 今回はその中のいくつかを紹介します。

どろんこまつり

眠っていたイベントを呼び覚ましました！実に7年ぶりのイベントです。
豊郷町大字吉田の休耕田を借り、どろの中で運動会をしました。
真夏の田んぼはひんやり気持ちいいです。
NPO 法人とよさとまちづくり委員会のみなさんや、田んぼを貸して下さった楽農ファームの方々など、地域の方と学生の仲が深まったイベントです。



ミツマルシェ

さかのぼれば 2012 年にスタートしたミツマルシェ。
地域の方にもだんだんと知られています。企画から広報、当日の運営まですべて学生が主体になって動きます。学生にとってもなかなかある体験ではないので大変なこともありますが、当日は地域の方々や酒蔵祭りに来られたお客さんなど多くの 100 名以上の集客を得ることができました。
今後もゲストさんやお客さんに学生や地域などを飛び越えて関わってもらいたいイベントです。



その他のイベント

ほかにも地域のイベントなど多数参加させてもらっています。8月のとつとまつりや吉田夏祭りに八町地蔵盆、とよさとハロウィンにクリスマス会などなど…
本当に様々です。1年間たくさんのイベントで地域の方々と関われるのはとよさと快蔵プロジェクトの魅力と言えるでしょう。



発行日：2018 年 3 月 31

とよさと快蔵 プロジェクト

とよさと快蔵プロジェクトは 2004 年に発足し
今年で 14 年目を迎えました。
この 14 年間で古民家や蔵を
まちづくり委員会の方々と協力しながら改修し、
時にはイベントの企画や参加、
改修した BAR の運営をすることで
私たち学生の視点から
「まちづくり」を考え、活動しています。

まちの方の声

毎年の活動とはいえ、メンバーの入れ替わりがある中、勢いが止まることなく
皆さんの活動を継続して頂いていることに感謝致します。
皆さんの活動は、まちづくりだけではなく町として
無くてはならない存在になっています。
本年度も整備、イベント運営、町の会議、祭の参加など
精力的に活動して頂きました。
県立大学の関係者の皆様、日頃から学生達の活動支援を頂いているからこそ、伸び伸びと地域活動に邁進しておりますこと合わせて御礼申し上げます。本年度のとよさと快蔵プロジェクトの活動に感謝致します。
とよさとまちづくり委員会
副理事長 岡村博之

とよさと快蔵プロジェクトは、地域の空き家を改修し、ゲストハウスの作成を手がけてくれました。
今、町の民泊推進の方針もあるので、ゲストハウスへの取り組みは、おもしろく感じました。
又、週に一度ではありますが、バーの運営での地域の方々と
の交流の場づくりや、夏まつりや地蔵盆などの地域イベントへの協力で、地域の方々と関わる機会を持つことで、
地域活動のスムーズな取り組みができていたと思いました。
今後も、地域との連帯を持って、さらなる活動を期待します。
とよさとまちづくり委員会
理事長 北川稔彦

一年間の成果と課題

1 年間の活動を終えて、
特にとよさと快蔵プロジェクトのシステムや町における役割などを見直す時が来たのではないかと思います。
とよさと快蔵プロジェクトはまちづくり団体の側面よりも、古民家改修の側面が色濃い団体としてスタートしました。
徐々に地域にも認められ、イベントも増加し、いまではまちづくりの活動のほうにより多くの力を注いでいます。
これには現在のメンバーがさかのぼれるだけの OB・OG に限界があり、結果伝えられる歴史がだんだんと削ぎ落とされているという事実があるのです。
しかしそれは悪いことでしょうか。
これからの課題は、とよさと快蔵プロジェクトが
いったい何者なのか、それをどう次世代につなげていくのか、
観念的に考え客観的に伝え形にしていこうと考えることだと考えます。

信・楽・人

-shigaraki field gallery project-

プロジェクト紹介
信・楽・人-shigaraki field gallery project-は、信楽の窯元散策路を拠点として、イベントや制作を通して地域活性を目指す団体です。

好評

夏湖風で信楽焼を販売



(右図)販売ブースの様子

6月17日の夏湖風祭にて、毎年恒例の作品販売をした。谷寛繁さんの協力のもと、数日に分けて信楽人のメンバーで商品の制作を行った。昨年度は主にヘアゴムやブローチといった信楽焼のアクセサリを販売していた。ところが今年度は、お皿やぐい呑、箸置きといった定番商品を販売し、雰囲気も可愛いデザインからシンプルで日常生活に馴染みやすいものへと一新した。

商品作りは型をつくることから始まり、お皿やぐい呑は板状の粘土から形をつくるタタラ成形で、箸置きはメンバーが手捻りで思い思いの形を作った。その後素焼を行い、絵付けをして透明になる釉薬を掛けたり釉薬が入ったスプレーを吹き付けたりした。2回目の焼成が終われば、商品の完成だ。

湖風祭当日、天気にも恵まれ、多くの人の関心を持ってもらうことができた。ぐい呑の人气が高く、お皿をまとめ買いしてくださったお客さんもいたため、昨年度と比べて売れ行きは好調。気が付けばお皿とぐい呑のほとんどがなくなっていた。また、制作過程や昨年度作ったパンフレットを紹介するスペースも好評で、通りすがりに見ていく人が多く見受けられた。

興味を持ってくれたお客さんたちから、「家族の人数分だけ同じ柄のものがまとめて欲しかった」というアドバイスも頂き、来年度の活動に大きく役立ちそうだ。

ちょっと聞いてよ！プロジェクト自慢

shiroiro-ie 白や再び

6月末に数日に分けて松庄さんのギャラリーであるshiroiro-ieのメンテナンス作業を行った。このギャラリーは以前信楽人のメンバーで改修した古民家で、改修し終えた頃は真っ白な世界が広がっていた。しかし、年月が経つにつれ草が生い茂り、丁寧に塗ったペンキが徐々に剥がれてきていた。今回の作業では、庭の草抜きやツタの除去作業、ギャラリー内の掃除、ペンキの塗り直しを重点的に行うことにした。

その結果、庭はすっきりし、ギャラリー内もかつての白さが蘇り、shiroiro-ieという名前がよりしっくりくる空間へ戻った。



これからもギャラリーとして活躍できるようにしたい。大事にしていきたい。

(上図)ペンキを塗り直した後の家具

地域の声

毎年手伝っているぶ

らり窯元めぐりでは、インフォメーションのお手伝いをしながら消しゴムはんこの販売を行った。子連れの家族を中心に好評をいただき、「孫の土産に」と買う方もいた。特にためきのハンコは「かわいい」、「信楽らしい」という声があり、名前を彫ってから引き渡すというのを気に入った方も多かった。

本年度の成果と課題

今年度の活動で最も昨年度の反省が活かしたのは夏湖風祭での陶器の食器販売だ。他店の価格の安さやテーマの統一性のなさから売上が伸びなかった昨年度を踏まえ、フリーマーケットほど安さが重視されない、環濠沿いでのテント販売を行った。すると、一般参加者や学生にも購入してもらい、人々が信楽焼に触れてもらうことができた。

また、本年度の活動を通して信楽で活動する窯元さんや地域の方々と接し、信楽のことをより知ってもらうきっかけが一つできたことも良かった。しかし、予定していた活動を一部実施できず、後半の活動が少なかったため、余裕を持って計画して協力団体に声をかけたり、積極的に行動したりする必要があると感じた。

政所茶レン茶” —

政所茶レン茶” —とは

政所茶レン茶” —は政所の魅力を再発見し発信しています。
お茶づくりから販売まで行い、その中で見えてきた政所町の魅力を発信しています
2017 年度は政所茶レン茶” —という名前に負けないくらい、様々なことにチャレンジして、行こうと考えてプロジェクトを行いました
アイデアコンテストに参加したり、地域活性化に取り組む、全国の学生と話したり、東京都や静岡県に行ったりしました！そのおかげで得るものが多い一年でした



ちょっとした自慢

政所茶振興会の方々と静岡県研修に行きました。静岡県の掛川市にいき世界農業遺産となっている茶草場農法を見学しに行きました！茶農家さんの努力や行政の協力のすばらしさを感じました。お茶一杯への努力を惜しまないことを大切に、活動をしていきたいと思いました
東京で出店しました。しかも秋葉原でした！なかなか難しい販売でした。本当に政所茶を伝えるのは苦労しました。これまでこんな活動はできていなかったの、大きな進歩だと思います。この一歩を大切に、政所茶を広めていく活動をしていきたいと思います。このように 2017 年度は関西圏に留まらずさまざまな活動ができました



地域の人から

今年もみなさんよく頑張ってくれたと思います。
また何か活動を行っている中で困ったことがあれば、私のいる時ならいつでも聞きに来てください。私もできる限りの指導をします。ただ一つ気がかりな点は、引継ぎについてです。君たちは茶の生産者であると同時に、大学生でもあるため、茶づくりにかけられる時間が限られており、頻繁に代替わりが行われる。しかし、その中でもより円滑に、次の世代に活動を継承できるよう工夫してほしいです。
今年から政所茶生産振興会も発足し、皆さんの活動もより幅広くなったことでしょう。年度もさらなる活性化を目指して、良いお茶を作りましょう。



成果と課題

お茶づくりはまだまだ教えて頂かないといけなことが多く感じた。もう一度一から教えてもらいたい。販売の方は 2016 年度の倍の売り上げだった。そのため多くの人に政所茶を広めることができたと思う。今年は組織の人数が増えたが、全員を活かせる組織体制となっていなかった。しかしさまざまなことにチャレンジできた。よい実績を挙げられたわけではないが、しっかり一步一步前に進んでいると思う。そういった挑戦する活動をこれからも大切にしていきたい。

まとめ

2017 年度はほうじ茶を作ることなどさまざまなことに挑戦できました。その過程の中で私たちも成長していけたと思っています。政所町の方のことも大切にしながら、自分たちにできることに挑んでいきたいです。

ボランティアサークル Harmony 新聞

*チームのビッグニュース

大盛況のクリスマスコンサート

毎年開催されているクリスマスコンサートを今年も行いました。クリスマスコンサートは、「障がい者でも気兼ねなくいい音楽を聴きたい」という保護者の方からの思いから始まり、学生が主体となって地域の団体と協力して行っています。毎年たくさんの人たちがこのクリスマスコンサートを楽しみにしてくださっています。今年は昨年よりも多くの人が来場してくださり、来場者数約三百人と大盛況でした。またゆるキャラ三匹をむかえ、来場した子供たちと一緒に子供たちに人気の体操を踊りました。



*プロジェクト紹介

ボランティアサークルハーモニーはNPO 法人障害者の就労と余暇を考える会メロディーの支援活動を十五年間行っている団体です。メ

*地域の声

我が家には、四月から高校二年生になる息子がいます。息子には

ロディーは地域の人たちの理解の中で「普通の生活がしたい」「働きたい」という障がい者の願いを実現させるため、障がい者の社会参加を促進し、就労の自立を図るとともに、余暇活動をはじめとした豊かで充実した社会生活を支援する団体です。ハーモニーはメロディーに所属する特別支援学校・学級、作業所などに通う自閉症やダウン症など他

生まれつき重度の知的障害と自閉症があります。小さい頃から人と接するのが苦手で、いろんなこだわりもあり、とても苦労してきました。そんな時に出会ったのがメロディーです。初めて見学に行った時、同じように障害を持った子供さん達が、大学生のお兄さんお姉さん達と楽しそうに活動している姿を見て、衝撃を受けました。代表の方やお母さんたちに聞いてみると、その学生さん達は県立大学のハーモニーというボランティアサークルの学生さんで、特別な専門知識も持っていない普通の大学生だという事を知りました。本当にそんな学生さんに子供を任せ

私たちが障がい有する人と学生が互いに成長することを目的にして活動しています。子どもたちにとっての成長とは、将来社会に出るために大切となってくる社会性やコミュニケーション能力を身につけるということであり、学生にとつての成長とは、活動を通して新たな発見をすることや円滑な活動の運営をするための能力を身につけるということです。また、この活動を通じて地域の方々と交流することで、障がい児・者を支える地域づくりの推進もできればよいと考えています。

私が嬉しく思うのは、ハーモニーの学生さん達が、障害者（児）や福祉に興味を持ってくれる事です。普通に生活していたら、きっと関わる事はなかったでしょう。でもハーモニーとして活動される中で、卒業後の進路に福祉関係の仕事、というのを考えてくれて、そちらに進んでくれる人がいる事を、本当に喜んでいます。私達親は、子供の将来を考えると暗くなります。でも、ハーモニーの学生さんに、私達は希望の光を見つけました。今はまだ小さな光かもしれませんが、これからも未来を輝くものにしてくれると、私達は信じています。



*ちよつと聞いてよ！

プロジェクト自慢

伊吹山初登頂！

ハーモニーの大イベントである夏のお泊まり会。今年は初めて伊

吹山でハイキングを行いました。子どもたちはとても元気で、雄大な自然の中を楽しんでいる様子でした。子どもたちが体力があるようで、学生が子どもたちに付いていくのに苦労しました。伊吹山の頂上ではみんなで記念撮影をしました。そのあと、お泊まりをする愛郷の森に移動し、食事や花火を楽しみました。学生と子どもたちの距離も縮まり、大切な時間となりました。



*一年間の活動を通した成果と課題

今年度から活動後に振り返りのシートを書いてもらうようにしました。振り返りのシートには感じたことや、今後に向けての改善点などを記入してもらいました。これらのことにより、活動で見えてきた反省点を次の活動で活かすことができたと考えられます。また、情報の共有もできたと思います。

子どもが描く絵にも変化がみられました。例えば、絵を描くときに暗い色を使うことが多かった子

どもが以前よりも明るい色を使うことが多くなりました。この変化の理由は、活動時に学生が担当する子どもを固定することによって、学生と子どもの間の信頼関係が強くなったからであると思います。学生が「暗い色が多いから、次はこっちの明るい色も使ってみたら」と声をかけると、アドバイスに耳を傾け、明るい色も使ってくれるようになりました。他にも、親がいないと活動することが難しかった子どもが、親が近くになくとも学生と一緒に活動できるようになりました。これも信頼関係を築くことが出来たからであると考えられます。今後もしっかりの固定を続けて行なおうと思います。しかし、固定した学生と子どもとの間にしか信頼関係が生まれないのではあまり意味がないと思います。複数の子どもと複数の学生との間で信頼関係を築いていくためにも今後は時期をみて、担当を変えていく必要があると考えました。



スチューデント キュレーターズ ツウシン

地域博物館プロジェクト トハ？



しおり作りの準備。画用紙やマステ、リボンは部員みんなで見ました！

民具や古文書、お祭りなど、地域には多くの文化財があり、それらは“地域文化財”と呼ばれます。その“地域文化財”や地域の歴史・文化などを住民の方々と共に調べ、“地域博物館”をつくりあげていくことで地域の魅力の再発見をお手伝いしています。

今年度は、白谷荘歴史民俗博物館（高島市マキノ町）・旧甲津原分校（米原市甲津原）での調査活動に加え、ビバシティ彦根（彦根市）にて開催された「博物館夏祭り」にも参加しました。

7月の博物館夏祭り、11月の湖風祭で、しおりづくりのワークショップ開催しました。普通のしおり作りでは物足りない、ということでは座メンバーみんなで議論した結果、「変体仮名のしおり」を考案しました。変体仮名とは、現在一般的に使用されている平仮名（1900年制定）とは字体が異なる平仮名のことで、しおり作りは、変体仮名表で文字を探し、それをトレーシングペーパーで写します。それに、色画用紙を貼り付け、縁をマスキングテープでとめ、上部に穴を開けてリボンを通して完成です。

チョット聞イテヨ！

プロジェクト自慢！！！！

いろいろなところに行ける！
→高島や米原など活動拠点が県内の様々なところにあります！

貴重な史料に触れることができる！
→調査では実際に、貴重な史料に触れることができ、授業だけでは学べないことがたくさんあります！

成果と課題

白谷荘歴史民俗博物館調査は、メンバーの積極的な参加により、膨大な資料の調査が終了に近づいてきました。奥伊吹民具調査事業では、新たな地域での調査に着手することができましたが、調書作りも進めていく必要があります。

イベント事業では新たな取り組みに挑戦し、来年度もアウトプット事業にも力を入れていこうと思っています。

これからもメンバーで話し合い、協力しながら、地域づくりのお手伝いをしていきたいです。

白谷荘歴史民俗博物館の調査・整理・維持・保存のため、先生方と共に日曜日の早朝より貴重な時間をさいて携わって頂き感謝しています。当館の地域では過疎化が進み住民の皆様も高齢化し若い人は少なくなっています。伝統的な行事は次第になくなっていくなど地域の伝統・文化も薄れてきてさみしくなってきました。市町村合併がされ地域文化担当の方も少なくなり組織的にも地方文化への関心が依然より薄らいできているように感じられます。そのようなかで皆様が直接地域の民具や教科書・古文書に触れ地方文化を感じとっていただけたら幸せに思っています。若い皆様が当館を通じて地方の民俗文化を守っていただくさっているように思います。私も学生の皆様方・先生方・一般ボランティアの皆様と共に地域文化を守っていきたくて考えています。又、皆様方の成果をいろんな所で発信していきます。

白谷荘歴史民俗博物館
川島光男

コドモニ人気？
オリジナルしおりワークショップ

地域カラノコメント

座・沖島新聞

Vol.02 2018.3.31



今年度のスケジュール

- 4月 桜祭り
- 5月 春の大祭
- 7月 とよさと改蔵コラボ沖島ペンチづくり
沖島小学校遠泳大会お手伝い
ヨシ船づくり
- 8月 沖島夏祭りのお手伝い
- 10月 沖島小学校運動会のお手伝い
FM 滋賀さん主催イベントお手伝い
- 11月 「湖風祭」出店
- 12月 沖島イルミネーションの飾りつけのお手伝い
- 1月 左義長祭りお手伝い
- 2月 沖島 100 円食堂お手伝い

発足二年を終えて

前年度は発足して1年ということで、写真展などのイベントを通して、島民の方々との距離が近くなり、少しずつではあるが、沖島での「座・沖島」の知名度が徐々に上がった。一方、前年度に行った活動を通して、団体としての体制が固まっていという反省点も挙がった。そこで、2年目は毎月定例会を開催し、今後の予定の確認や新たな活動のアイデアを出し合うといった活動を行った。また、広報や会計などの役職や、イベントごとの担当を決めることで、仕事の前年度よりもメンバー全体にいきわたる機会が多くなった。

3年目は、島民の方と一緒に今後の沖島について考える機会を増やすなど、これからも長く沖島に関わっていけるよう、課題を改善しながら少しずつ前へ進めればと思う。

座・沖島とは…

本プロジェクトは「まなぶ・まじわる・ささえる」を目標に活動している。主に、島民にどんな活動をしてほしいか、私たちに協力できることがあるかをヒアリングして、より沖島に根差した活動を目指している。

お祭りや小学校行事などのお手伝いや、座・沖島が主体になっておこなった写真展などの活動を通して、メンバーが沖島について理解を深め、沖島の活性化の方法を島民と探っている。

沖島小学校行事や、地域の方のお手伝い

今年度は遠泳大会だけでなく、秋の運動会やヨシ船づくりにも関わり、前年度以上に沖島の子供たちと関わる機会が増えた。子供たちとの関わりを通じて、沖島にとって子供たちが、宝のような存在であり、大事にされているか、感じる事ができた。

沖島のお祭りのお手伝い

今年度は桜祭りや夏祭り、左義長祭りなど、数多くの祭りの準備や運営、片付けをおこなった。この活動を通して地域の風習や歴史を理解するとともに、島民との関係も築くことができ、島民の生の声を聴く良い機会ともなった。

沖島住民の声

座・沖島さんには春祭り、夏祭りをはじめ、運動会、イルミネーションなどで沖島の振興に多大なご協力をいただいています。若者が島内で活動してくださるだけで活気が生まれるのですが、そればかりでなく、とても気持ちよく対応してくれます。特にイルミネーションでは急な依頼にも関わらず、さすが大学生、の出来栄えて島民みんな喜びました。他にも沖島食堂で高齢者とも関わってくださって、今や沖島になくてはならない存在です。これからもよろしく申し上げます。

かみおかべ SB 新聞

かみおかべ古民家活用計画

-SLEEPING BEAUTY-

2018年3月31日発行

ビッグニュース!

パーゴラベンチ製作

かみおかべ SB
の新名物

今年度、改修事業の一環として、木工プロジェクトさんと協力して、かみおかべ SB 前にパーゴラベンチを製作しました。学生だけではなく、地域の方の交流の場となってほしいという思いで製作し、「おかべ処 わいわい」と名付けました。

11月25日にパーゴラベンチお披露目会を実施しました。天候にも恵まれ、来てくださった地域の親子さんとおにぎりや豚汁を食べながら話をしました。「パーゴラベンチでバーベキューをしたい」「土にコンクリートを敷いてほしい」などのご意見をいただき、今後の活動に取り入れていきたいです!

その後の古民家での活動で、お昼ご飯はパーゴラベンチで♡というのが定着しつつあります。今後は地域の方にも利用していただけるように工夫していきたいです!

パーゴラ
組み立て中!

看板完成♡

お披露目会で
ふるまった豚汁☆



ちょっと聞いてよ!

プロジェクト自慢!!



ひょうたん事業では栽培したひょうたんを加工し販売しています!

今年度はまめひょうたんを工芸漆で加工し、ストラップにしました!

まとりょうしか風、お雛様とお内裏様、動物に見立てたもの、

シンプルなものまでものたくさん!! 幅広い年代の方々に大好

評!(^^)!製作した一人一人の個性が出ています!



かみおかべ古民家活用計画-SLEEPING BEAUTY-とは??

彦根市上岡部町にある古民家を拠点に活動しています! かなり立派な古民家です! 「SLEEPING BEAUTY」とは、古民家にたくさんの宝が詰まっていると名付けられたもの。①イベント開催②改修③ひょうたん④地域行事 の4つの事業を柱に活動しています。

①イベント開催

今年度は、毎年恒例のピザパーティー、新企画の古民家ホームパーティー、パーゴラベンチお披露目会を開催しました! ピザパーティーでは生地から作りドラム缶で焼いてピザをふるまいます! 古民家ホームパーティーではいままでふれ合いの少なかった年代の方と交流できました♡

②改修事業

パーゴラベンチを制作しました! いろんな人の団欒の場になってほしい…詳しくは上記にて(^^)

④地域行事

太鼓登山、寺子屋、運動会、グランドゴルフ大会などに参加しました。上岡部町でも少子高齢化がすすんでいます。もっと多くの学生が参加して地域の活性化につなげたいです(*^^*)

③ひょうたん

古民家の近くの畑で地域の方に教えてもらいながらひょうたんを栽培しています! 栽培したひょうたんを加工し販売もしています! 今年はまめひょうたんを加工しストラップにしました! ぜひ湖風祭などでお立ち寄りを(*^-^*)

～1年間の活動を通した成果と課題～

今年度は、改修事業やイベント開催で他団体とコラボしたり、新企画を実施したり、ひょうたんの出店を上岡部町外でも行うことで、今まで交流のなかった方々と交流することができた。今後はもっと多くの学生がいろんな事業に携わるようにしていきたい。また、古民家の住人がいなくなるため、新たな古民家活用方法を考えて生きたい。

地域の方から、
若い人たちが、この上
岡部町で活動するに
あたり、節度を持った
行動と、積極的に上岡
部町に係ろうとする
姿勢は、今の若者も頑
張っているな、との印
象を強くする次第で
す。
上岡部町治会長さん
より

田の浦新聞

発行日
2018 年 3 月 31

新競技「海の宝探し」で奮闘



田の浦ファンクラブ学生サポートチームが行う「海の大運動会当日」の「田の浦」が八月六日、田の浦漁港で開催された。今年で六回目となるこのイベントは、東日本大震災の被災地である宮城県南三陸の田の浦地域のかつてのお祭りをもう一度やりたいという声から六年前に始まった。（運動会の写真）

主な競技には、海上に子供用ブールを浮かべてボール投げ入れる「海の玉入れ」、海上に浮かべた発泡スチロールの上を走る「海上徒競走」などだ。



今年の目玉競技は「海の宝探し」で、参加者は発泡スチロールに乗って、宝の番号が書いた石に繋がれたアヒルの浮きを集める。（宝探しの写真）

今年は昨年に続き総参加者数二百人を記録し、ますます盛り上がりを見せる運動会であるが、地域の人々も、この田の浦の一大イベントを長く続けていきたいと意気込んでいる。

田の浦NEWS

震災の記憶 風化させない



田の浦ファンクラブ学生サポートチームが行う「3.11 キヤンドルナイト」が、三月十一日、田の浦交流センターで行われた。参加者のみなさんは、キヤンドルに巻きつける紙に豊富や感謝の気持ちをそれぞれ綴った。（写真）



年間活動

田の浦FC学生サポートチームの2017年

- 四月 おちやつこ会
- 五月 おちやつこ会
- 七月 おちやつこ会
- 八月 海の大運動会
- 十月 おちやつこ会
- 十一月 秋湖風祭出店
- 十二月 おちやつこクリスマス会
- 一月 新年会
- 二月 キヤンドルナイト準備
- 三月 キヤンドルナイト

田の浦FC学生サポートチームの二〇一七年の活動を振り返ってご紹介します。

おちやつこクリスマス会

十二月の恒例行事である、おちやつこクリスマス会が、十二月二十四日に行われた。今年はみなさんで年賀状を書きました。子どもたちも来てくれ、子どもたちとはクリスマスケーキづくりをしました。



おすわけファン্ড募集中!

NPO 法人田の浦ファンクラブは、田の浦の海の幸を全国に発送します! 詳しくは学生サポートチームまで!

☆今年度の課題と成果☆

成果…地域の方々の主体性が、イベントごとに大きくなってきている!
課題…新入生をたくさん入れて、田の浦に学生をもっと連れて行く!

とよさらだ新聞

2018 年 3 月 31 日

発行

農家さんとお米作り 今年も豊作

とよさらだプロジェクトは以前から犬上郡豊郷町でお米を作っておられる古川ファームさんに一反の水田を借りており、その水田で種落とし、田植え、草刈り、収穫などのお米作り体験をさせていた

っている。種落としから収穫まで普段ならできない体験させていただくことで一年間のお米農家さんの作業について知ることができた。手植えでは古川さんに直接指導いただき、他にも近所の方と話す機会もあった。豊郷町の方々と交流を持ちながら、学生が普段できないようなお米作りに携わる良い機会となった。

お祭り・イベント出店 地域交流も

とよさらだでは、畑を借りて作

物を育てるだけでなく地域との交流を通じてたくさんの方々とのつながりを持つことも大切な目的の一つとしている。今年度は、旧豊郷小学校で開催されたとよまつり、とよさと快蔵プロジェクトさん主催で豊郷町の満ち家にて開催されたミツマルシェに参加させていただいた。



とよまつりでは、畑で採れたじやがいもを使ってフライドポテトを販売、ミツマルシェでは同じく、畑で採れたサツマイモを使い、蒸しパンを販売させていただいた。地域の催し物に参加させていただいたことで、私たちの団体がどの

ようなことを行っているのかをたくさんの人々に知っていただくことができた。また地域の方々、他のプロジェクトの方々とも多くのつながりを持つことが出来た。また普段のとよさらだの活動ではあまり経験することのない調理から販売までを自分たちで行ったことで、商品販売の大変さを知り、自分たちで作った野菜を使った商品が売れた時の喜びを感じることが出来た。良い経験となった。これからまたくさんの地域の方々との交流の輪を広げていきたい。

今年度の成果、 来年度への課題

今年度は地域のイベントに多く参加できたと思う。ただ直売所で野菜を販売するという機会は少なかった。野菜の販売には地域の活性化やとよさらだのPR、野菜栽培における知識の習得など様々なメリットがあると考えられる。容易に出来ない事業ではあるが、来年度は精力的に販売を行っていき

地域の人の声

とよさらだは農業経験の少ない若者たちが野菜作りに取り組んでいる。わからないなりに地域の人たちとコミュニケーションをとり、土に触れ、野菜で地域と関わっている。

野菜の出来不出来は関係なく、若者が興味を持って活動してくれれば大変嬉しい。

将来、この経験を生かした職業に就いてほしいと思う。

豊郷町エコファーマー 森久仁彦

「とよさらだ」
とは？



とよさらだでは、滋賀県犬上郡豊郷町で使われなくなっていたビニールハウスと露地を借りて活動している。年間を通して野菜の栽培を行い、大学生協、近江楽座の他団体、直売所や地域のイベントで出荷・販売を行っている。

- 目的
- 一、地産地消の促進
 - 二、野菜作りをしたことのない学生に機会を与える
 - 三、地域とのつながりをもつこと



木興プロジェクト

滋賀から、被災地へ通い続ける

木興プロジェクト

木興プロジェクトとは、滋賀県立大学の環境建築デザイン学科・生活デザイン学科の学生による震災復興支援プロジェクト。東日本大震災という未曾有の事態を目の前にし、建築・デザインを学ぶ私たちに何ができるのか、何かしなければという思いから立ち上げたプロジェクト。結成より宮城県本吉郡南三陸町歌津田の浦で活動が続けており、今年度での年目を迎える。2011年の漁師の方々のための番屋に始まり、2012年のニュー田の浦センター（集会所）建設そして以降センターの増築や、キッチン・ペースの製作、敷地内のガーデン整備、パーゴラ製作、ベンチ製作を行ってきた。



田の浦について

宮城県本吉郡南三陸町歌津田の浦。彦根から300kmの距離、車で走ること13時間。リアス式海岸特有の優れた景観を持つ南三陸町の北西の沿岸に位置する。世帯数51戸、人口304人（平成17年度1月31日現在、昔から漁業が盛んで、漁業で生計を立てている家が多く、養殖業ではホヤ、ホタテ、ワカメが獲れ、沿岸漁業では刺網漁でマダラ、カレイ、アキザケ。籠漁でタコ、白ツブ貝、モガニなどが獲れる。

東日本大震災では15m近い津波が押し寄せ、死者14人、行方不明者3人を出し、55戸が被災した。田の浦は震災当初、道路が遮断され陸の孤島となり支援車両が通り過ぎ、ボランティアもほとんど入っていない取り残された地区だった。



地域の方と共に、

鳥居を再建

東日本大震災により破損した南三陸町歌津長沢にある白鳥稻荷神社の鳥居。田の浦の方からこの鳥居を直すことができないかとお願いがあった。当初は、どうやって作ればいいのか、今いるメンバーの技術力で鳥居を作るのか、など多くの不安と悩みがあった。しかし、それは現地の大工さんなどと共に、行うことによつて解消された。現地の方と共に活動できたのは、これまで木興プロジェクトが田の浦と関わり続けて築き上げた関係のおかげであると思っている。

元々あった鳥居は柱の根本がコンクリートでコーティングされていたが、そこに水が溜まり少しずつ腐っていたそう。そんな状態のときに東日本大震災が起これ、その大きな地震の揺れによつて倒れてしまった。コンクリートの部分だけは残った状態になった。このコンクリートを利用して再建することができないかと思いい設計をしていた。しかし、左右が非対称で穴の形や大きさ、角度などが異なっていたので、基礎だけを再利用することにした。

柱は、四角の材の角を落としていき、八角形、十六角形、三十二角形、...と、多角形にしていくことで、つるつるになるまで丸くしていた。横材はまっすぐな一本にしてもよかったが、良い見え方になるように両端が少し上がっているようにした。木材は栗木を使用しているため、普段使っている杉材や桧材と比べ、非常に固く大変であった。施工ではまず、できた材を水平面で組み立ててからそれを釣り上げて基礎にはめ込む作業だった。ミリ単位での誤差の修正などを行ないながらの作業で、はめ込むまでにすごく時間がかかった。この日は、クレーンを使ってももらったりなど多くの人に手伝っていただいた。

施工が終わり、最後は塗装である。普通のペンキではなく鳥居用の塗料が決まっており、それを塗った。赤くなることで、緑を背景に存在感のあるものになった。今回、鳥居を作れたのは、現地の人などの協力があったおかげである。協力しでは完成させることはできなかったらう。感謝の気持ちでいっぱいである。

地域の声

立派な鳥居を作ってくれてありがとう。毎年木興の学生が来てくれることが嬉しいし、来年もまた来てほしい。今回の鳥居以外にも田の浦には鳥居がある。その鳥居の色を塗り直してほしい。

千葉昇一郎さん

あの日から1年になります。その当時は生かされたという思いだけで、何も考えられず、どうしていいのかもわからず、ただ走り抜けてきたような気がします。

滋賀の皆様、学生さんたちには応援はじめ、励ましの言葉、勇気づけられ、監査の言葉しかありません。まだまだ寒さが厳しく春の訪れ雪解けを待ちながら日々暮らしていきたいと思っています。

金野安美さん

（田の浦住民、おちゃっこ会主催者）



八角形から丸へ



7年目の成果と課題

今年度は例年と異なり院生がおらず、技術力・知識など色々なことで劣っていたが、自分たちだけで何ができないかを考える、できないことは現地の人や先生などに協力してもらった。そのおかげで、鳥居の再建など大きなことまで行うことができた。

今後はより多くの人にこの活動を知ってもらうことが必要であり、長期的に関わる木興プロジェクトが震災以降行なった活動内容をまとめるべきだ。それは、短期間で作るものではなくゆっくりとじっくり作るべきだと思っている。そのため、アーカイブ作りを始めた。今後の復興支援団体にに向けたものを作ろうと考えており、それをするためにこれまでの活動を振り返っている。その中で、少しずつ復興支援から町興しに変わってきていることを実感している。それを踏まえて今後の活動を考えなければいけない。



廃棄物バスターズ新聞

人と環境を救う雨水タンク

廃プラと水資源を意識できる
地域人・社会を目指しす

雨水タンク

本団体は廃棄プラスチックからリサイクルプラントの開発、製造、販売に貢献してきた団体です。この活動の際に、廃棄プラスチックを用いても強度を保つことのできる技術を開発しました。

そして、この技術を用いて新たに廃棄プラスチックを雨水の再利用、ゲリラ豪雨等による水災害の予防、災害時のための貯水が可能な雨水タンクにも用いようと考えました。ただし、これまで行ってきたリサイクルプラントとは求められる事柄が大きく異なっているため、当研究室で実験・考察することが必要です。

私たちの活動により実際に雨水タンクを製造・販売し、各家庭に普及し人々の環境への意識向上が図れると考えています。また、各家庭に小さなダムを所有するような社会のあり方を目指しています。

雨水タンク」の

実物大成形へむけて！

昨年度から交渉を行ってきた企業と交渉を継続してきましたが、相手側の事情が解決されず、成形ができませんでした。また、これまでの成形方法ではリサイクル品の大きな付加価値である「エコマーク」の認定を受けることができない状況にありました。そこで、これまでの検討と異なる、新たな成形方法に着目しました。新しい形方法では、これまでは困難だった「エコマーク認定」を受けることができます。

しかし、難点として原料の事前加工が必要となりました。その原料加工は企業に依頼をする必要でしたが、加工していただけの企業を発見し交渉したものの、今年度に行うことが困難でした。

そこで、今年度は成形方法を変えたことによる、原料の見直し、その物性の評価を行い、来年度の実物大の清家へ、向けた活動をおこないました。

地域の方の声

彦根キレイ隊馬場さん

「一滴のスペアミント気分を一緒に」

今年も、廃棄物バスターズの皆さんは学業や諸事情がある中、可能な限りの協力をしてくださいました。本当にありがとうございます。嬉しく思っています。彦根にお越しくださいる方を気持ちよくおもてなしするのためのイベント会場でのキレイブー活動等のご協力に感謝いたします。活動すること味わえる一滴のスペアミント気分。これからも一緒に味わいたいものです。

雨水タンク」だけじゃない！

「廃棄物バスターズ」

hana-wa活動

これまでの研究で作製したリサイクルプラントを用いて、福祉問題へのアプローチを実現したものが「hana-wa」活動です。現在四つの福祉事業所と上西産業(株)と協力し、プラントの販売やメンテナンスを行っています。私たちはプラント数の多い大津市の草花メンテナンスに参加し、整備のお手伝いをしています。



彦根キレイ隊

彦根駅周辺の美化活動をなされている彦根きれいだいに参加させていただき、彦根市周辺や、よさこい祭り、ゆるキャラ祭りでのゴミ拾いゴミ分別の啓蒙活動をお手伝いしています。

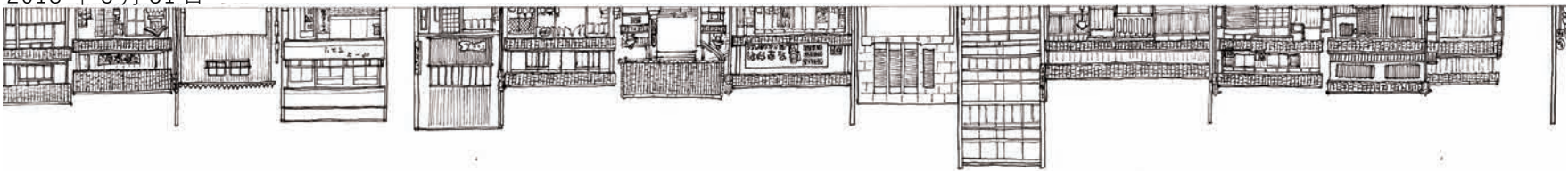


廃棄物バスターズのこれから

来年度は、雨水タンク作成を本格化するとともに、今年度行うことができなかった試料の粉末化加工を行い、実物大タンクの試作を行います。その他の活動についても今後積極的に参加、発展させる事を考え、地域の方に廃棄物バスターズを知っていただくこと、地域貢献することの両立を図りたいと思っています。

発行日 「2018年3月31日」





木之本こじへいプロジェクト

新聞

活動紹介

木之本こじへいプロジェクトは、長浜市木之本の北国街道に位置する古民家を改修し、長浜北部への入り口として国内外の人々の目印となる魅力的な拠点を作るプロジェクトである。地域に根ざし、新たな繋がりが生まれる場所を作ることを目標としている。

木之本・長浜 街歩き

ワークショップに参加！

一〇月八日、建築家の大井鉄也さんや、つるやパンの方々と街歩きを通して木之本の現状や将来の展望などについてお話いただくワークショップに参加した。

滋賀県立大学の卒業生でもある大井鉄也さんは、建築のコンペティションである「SDレビュー 2017」で木之本にある、つるやパンの工場の改修を行う計画案で見事入選された。今回のワークショップでは実際に工場に見学させていただいてお話を聞いた。また、つるやパンの本店や大井さんが改修した古民家を見学させていただいた。

私たちの知らない木之本の魅力や、木之本で頑張っている方々の生の声が聞けてとても勉強になった。そして、まだまだ木之本のことが表面的にしか理解できていないことに気が付いた。

今年度の活動

今年度は、学生による町並みの調査を中心に活動した。木之本は江戸時代から宿場町として栄え、現在でも街並みが大切に守られている。木之本の歴史や街並みをより詳しく知ること、今後の活動のベースを確立しようとした。



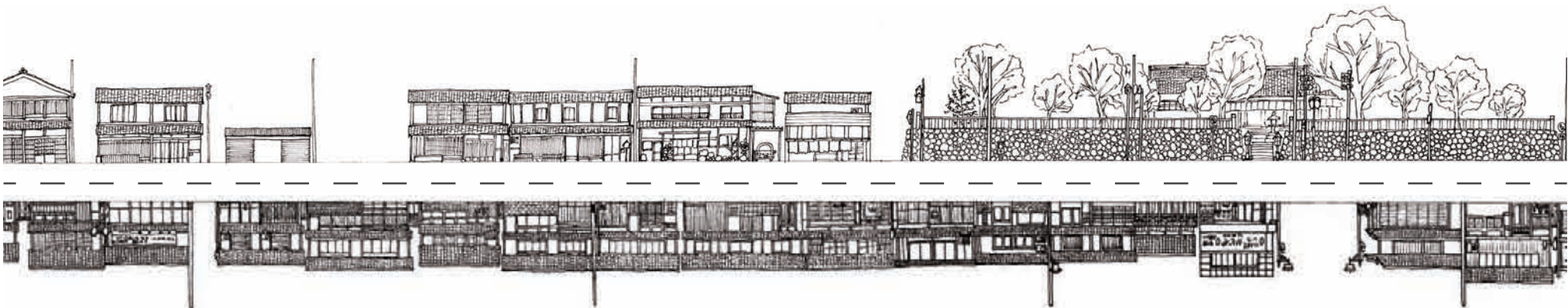
大井さんが改修された住宅。住宅ではあるが、町とのつながりを大事にされていて、この土間は地域の人に開放した空間となっている。自分達のプロジェクトにつながるよい参考になった。



この日は快晴で、楽しく街歩きすることができた。大井さんを先頭に木之本の街並みや歴史、特徴などを教えていただいた。



つるやパンの専務の西村さんは、つるやパンは木之本の子どもからお年寄りまですべての人をとても大切にされていて、町のパン屋だからこその地域振興のあり方を語ってくれた。



木之本街並み研究会で

調査報告会

木之本街並み研究会は、木之本に住む高齢者の方が若い方に歴史を継承するために発足された研究会であり、地域の街並みの現状、未来について木之本の方々が意見交換している。この研究会で調査報告をすることで、学生が考える木之本の魅力や発見聞いてもらい、今後の木之本のまちづくりの方向性を考える。

報告会では、木之本に住んでいる方々の生の意見をいただいた。特に、呼び名や歴史的な背景などに指摘があり、今後の調査に活かしたい。



私たちは、北国街道の街並みを手描きで、連続立面図にしたマップを作製した。今回の報告会で、このマップがとて木之本に人にとっても好評だった。

木之本の方からは「今後イベントに使ってみたいー」や「マスキングテープにしてみたいー」など温かい意見をいただいた。



調査報告書完成！

今まで調査してきた内容をまとめて「木之本町並み調査」という報告書を制作した。この報告書を用いながら、今後の方針を木之本の方と話し合っていきたい。



課題と成果

昨年は、木之本にある元麹屋「こじへい」を改修するプロジェクトとして活動が始まったが着工することができなかった。その反省を活かし、今年度は木之本こじへいプロジェクトで、学生による町並みの調査を中心に取り組み、町のイベントなどにも積極的に参加することに決めた。

木之本をより詳しく知ること、古民家の改修の手がかりとなり、今後の活動に繋げていくためのベースを確立しようとした。そのために、秋から本格的に、木之本を訪問し、歴史や街並みについて調査した。そこで、地域の方と会話したり、地域の商業施設や産業の魅力を改めて感じる事ができた。そのことで、町をより知りたい、より関わりたいというメンバーの方向性が固まってきた。

来年度の活動はすでに動き出している。中山郁英さんが今年の三月から木之本の町屋に移住され、リノベーションをすることを考えられている。その計画を建築家の大井鉄也さんと、私たち学生と共に進めていきたいと考えている。調査したことをベースに木之本の可能性を考え、さらに勢力的に活動をしていきたいと考えている。

地域の方のコメント

地域に大学生が関わるといことは、新たな目線で地域の魅力や特徴が発見される、とても意味のあることだと思います。地域の方が集まる「街並み研究会」での発表では、地域の方々も興味深く話を聞かれていたように思いました。質疑応答では厳しい質問も出ていましたが、そういった質問をしたくなるような、よい調査発表だったということではないでしょうか。力作の街並みスケッチも好評でしたね！

(ながはま市民活動センターコーディネーター

中山郁英)



ひまわりたくさん取れました！



ひまわり畑の様子 8月22日

彦根市三津町にある休耕田と県立大学の工学部棟で菜の花とひまわりの栽培を実施した。休耕田では4月から6月にかけて菜の花の栽培を行い6月から10月にかけてひまわりを栽培した。

今年ひまわりの種まき時期を早めたおかげで収穫量が増加しました。また、昨年引き続き畑に行く回数を増やし、できるだけ雑草を少なくできたのも良かったと思う。来年度は、種の品種を変え、搾油に關しては、良い乾燥場所、方法を考え、昨年度以上の菜の花油を取れるようにしたい。

フラワーエネルギー

「なの・わり」



フラワーエネルギー「なの・わり」は、植物を使った資源循環型社会の形成を目指したプロジェクトで、菜の花・ひまわりの栽培を行っている。また、小学生・高校生を対象とした授業イベントで、環境やエネルギーに関する啓発活動を行っている。

今年2つの小学校で出前授業！

今年度は、平田小学校と城北小学校の2校で出前授業を実施した。授業内容は、地球温暖化やバイオディーゼルについての講義や、手のひらで発電する実験などである。

「バイオディーゼルで地球を救おう」の劇では小学生たちに、バイオディーゼルについて興味を持ってもらえた。授業後のアンケートでは、「地球温暖化についてよくわかった、と」の声があったので、地球温暖化について関心をもってもらうことができたと思う。



出前授業の様子 平田小学校 6月13日

チームのビッグニュース

昨年度に引き続きヤンマーミュージアムから、ワークショップの依頼がきた。昨年同様、子供たちにも楽しんでもらうことができたのでよかった。



ヤンマーミュージアムワークショップの様子 10月7日

内容は、スライムづくり、割れないシャボン玉体験、子供たちに、科学の面白さや工作の楽しさを感じてもらうことができたと思う。

また、秋祭りでは、追加でバルーン飛行機つくりを行なった。予想以上の人数の子供がブースに来てくれて、楽しんでもらえた。

今年も高大連携授業！

今年度も、虎姫高校の2年生（理系）が来校し、エンジン講習および燃料作りの講義を受けた。講義では、バイオディーゼル燃料を高校生につくってもらい、その燃料で動く「バイオディーゼルクート」に試乗するなど、エネルギーに関する体験をした。



高大連携授業の様子 8月21日

燃料作りでは、軽油とバイオディーゼルの違いや、再生可能エネルギーについても指導した。バイオディーゼルクートの試乗は今年度も好評で、動いた時には歓声が上がっていた。

湖風祭で揚げ餃子

大学の学園祭である湖風祭で、ひまわりの油を用いた揚げ餃子の販売を行った。子供連れのお客さんや学生などが来てくれた。揚げ餃子だけでなく、ひまわり油そのものに興味を持って頂きよかったと思う。



湖風祭の様子 11月4日

成果と課題

今年度はひまわりの収穫量が増えた。また、ヤンマーミュージアムでワークショップを開くことができた。来年度は、さらに小学校の訪問数を増やし、さらなる広報活動拡充を行なっていきたい。

おとくら新聞

発行日

2018年3月31日

蔵でのイベント

おとくらプロジェクトでは、おとくらにある広めのスペースを活用して様々なイベントを行ってきた。その中でもおとくら寄席は2015年



から続く定番のイベントとなっている。このイベントで私たちは落語家の方々に場所を提供したり、落語を見に来たお客様に飲み物を提供したりする。毎回落語家の方々が来てくださるが、今年度は近江高校の古典部による落語が行われた。地元の高校生との交流がとても印象的であった。今後も今年度の寄席のようにさらに交流の幅を広げることができたらと考える。

おとくらプロジェクト ってなあに？



おとくらプロジェクトでは、彦根市高宮町の古民家でコミュニティスペースとして「ギャラリー喫茶おとくら」を運営し、高宮町の活性化を目指している。この古民家は、家主の加藤義明さんに協力していただきながら、学生が改修し、つくられたものである。おとくらを訪れた人は、独特で穏やかな雰囲気を感じることができよう。また、併設しているギャラリーは月ごとに展示が変わり、様々な作品と出会える場となっている。

地域の声

先日、いらっしゃったお客様は高宮町に住んでいる方だった。年をとって外に出る機会が少なくなった人が集まって、おしゃべりをしたり、趣味ができたりする空間になればよいと思う、とお話しされていた。実際、地域の方との交流はまだまだ浅い。気軽に立ち寄れる雰囲気づくりや「おとくら通信」による情報発信の強化などを行い、地域の方に交流の場として訪れていただけるように活動していきたい。さら

に学生や観光客と地域の方との交流がおとくらから生まれれば、より活性化に繋がるだろう。

ちよつと聞いてよ！

おとくらの良いところは、人とのつながりをもつことができるということだ。おとくらに訪れるお客様とコミュニケーションをとることができるのはもちろんのこと、イベントやギャラリーを通じて様々なジャンルで活躍されている方とお話する機会がある。

成果と課題

今年度は、ドリップメーカーを導入し、新メニューが増えるなど、新しい試みを行うことができた。また、昨年度も参加させていただいた高宮サマーフェスティバルに今年度は「ボール入れ」を出店し、地域の方と交流を深めた。蔵では、アコースティックギターワークショップや、寄席といったイベントが開催され、様々な人とのつながりをもつことができた。

課題は、地域の方におとくら喫茶へ足を運んでもらうことが少ないということだ。おとくらに訪れる方が満足できるような、落ち着いた空間づくりを引き続き行っていきたい。

生き物研新聞

守ろう！琵琶湖の在来種

滋賀県大生き物研究会

滋賀県立大学の学生団体「滋賀県大生き物研究会」は琵琶湖の外来生物に学生として何かしたいとの思いから、釣り好き、魚好き、生き物好きな学生が集まって発足した。一昨年までは、滋賀県大BASSER'Sという名で活動していた。学生として他の学生や地域へ働きかけ、地元の水環境を守ることを目的としている。主な活動は、地域を流れる河川と琵琶湖の内湖における月2回ほどの外来魚駆除と在来魚のモニタリング。獲った外来魚はできるだけ胃の内容物の確認や生殖腺の観察を行なっている。その他、外来魚駆除釣り大会やお魚採りイベントの自主開催、学生向けの勉強会や県と連動した活動、学園祭でのブース出展もしている。地域との連携、活動の展開が期待されている。



生き物観察会

☆身近な生き物を知ろう

六月十八日、愛西土地改良区で開催された水士里ふれあい体験で生き物観察会を開催した。我々生き物研究会は毎年、このイベントで生き物観察会を催しており、今年も例年通り水辺の生き物を展示して、生き物に関するレクチャーを行なった。

今年展示した生き物はフナ、カネヒラやナマズといった魚類に加えて、ミミズやカメ、カエルといったバラエティに富む展示内容となった。観察会ではその中から「ナマズの生態」、「日本一長いハッタミミズ」、「カメ3種類の違い」という3つのテーマについてミニ講義が行われた。「ナマズの生態」では子供たちは実際にナマズに触れ、うろこがないということに驚いている様子だった。日本一長いといわれるハッタミミズが子供たちの目の前に現れると歓声が上がった。「カメ3種類の違い」ではそれぞれの特徴がイラストで解説され、外来カメが増えている現状を知ってもらった。



今回のイベントでは、地域の子供たちに生き物を見せるだけでなく実際に触れることで、生き物についてより詳しく知り、興味を掻き立てるいい機会になったと思う。その子供たちが将来、環境問題に関心を持つことができる大人に成長し、日本の水辺の未来を担うことが我々生き物研究会の目標である。

→ 生き物の生態を解説するメンバーと真剣に話を聞く子供たち

外来魚を釣ろう

☆外来魚駆除 釣り大会

五月二十八日に生き物研は彦根市の曾根沼で外来魚駆除釣り大会を開催した。にじいろs.s.o.さんの協力のおかげで多くの子供たちが曾根沼の湖畔に集結した。子供たちは生き物研メンバーの外来魚に関する解説を聞いたあとに、橋から糸を垂らした。生き物研メンバーは子供たちが安全に楽しく釣りを楽しめるように巡回しつつ、危機管理や釣りの指導、針外しなどを行なった。

幸い、当日は天候に恵まれ、釣り日和ではあったが、外来魚であるブルーギルは同じ場所に固まっているようであり、場所によってたくさん釣る子とあまり釣れない子の差がある様子であった。その状況に対して生き物研メンバーは、あまり釣れていない子に釣れる場所を教えてあげたり、釣れる方法をレクチャーしてまわった。



子供たちは時間を忘れて釣りに集中している様子だった。じっと浮きを沈むのを待ち、自ら釣った魚の喜びは生涯忘れがたいものになるだろう。保護者から子供が毎年楽しみにしているのですと声をかけていた。嬉しく思う。この活動によって外来魚の問題に興味を持つ子供たちが増えると幸いである。

☆地域の声

保護者が釣りをする機会がないと子供も機会を得られにくいのですが、専門的な知識と技術をお持ちの皆様がサポートいただけたおかげで、釣りの機会が得られました。親子での体験によって話題が家庭に持ち帰られ、家庭毎に環境や生き物について関心を持ち、考える機会が持てたことは大変有意義でした。

にじいろs.s.o. 高尾裕貴子

2017年を振り返って

今年度で私たちの活動は七年度になる。ここまで活動を続けることができたのは、多くの方からの支えがあったおかげである。神上沼での外来生物の駆除活動は、昨年度同様、頻度を減らして行ない、その影響をみた。また、啓発活動については、今年度から、新規プロジェクトとして野瀬川での活動を開始した。そして、野瀬川は市街地を流れる小規模河川でありながら豊富な魚種が生息する自然豊かな川であることがわかった。啓発イベントについても曾根沼で、外来魚駆除釣り大会を実施したり、「青少年科学の祭典」で水族展示を行ったりした。また、びわ博学生ミーティングでの発表など効果的に広報活動を行なえた。今年度は毎年行っているイベントがほとんどであったので、来年度は私たちが自発的に開催するイベントを増やしていければ良いと考えている。



来年度も神上沼での活動を継続する予定であるが、神上沼は交通の便が悪いため、活動の規模は今年度より縮小すると考えられる。来年度は新しく始めた野瀬川での活動をより発展させていく必要がある。また、今後は活動場所に縛られないある特定の種類の生き物について調査、研究していく方法について必要があると思われる。

考える。さらに、メンバーの積極的な活動への参加を促すためにメンバー同士の仲を深めるためのイベントを企画するべきである。私たちが今後どのような活動をしていくべきなのか、地域で必要な何なのかをしっかりと考えていき、長く続けるためにしていきたいと考えている。

代表 山田智行



男鬼楽座新聞

～未来を紡ぐ、男鬼の茅葺き～



2018/3/31

プロジェクト紹介

男鬼楽座の「男鬼」とは？

男鬼は滋賀県彦根市の東の端、多賀町との境目にある山村集落です。現在住んでる人はいませんが、茅葺き民家が残し、周りの自然と一体となって昔の集落景観をとどめています。昭和 30 年後半から住民の離村が始まり、昭和 46 年には、最後の移住者が離村しました。

その後細々と利用されていましたが、荒廃は進んでいます。

男鬼楽座では、そんな男鬼の文化を守るための事業として、男鬼に残る茅葺き住居の茅葺き屋根葺き替えイベントを実施しています。



ちょっと聞いてよ！プロジェクト自慢

ーイベント開催ー

今年度は男鬼での茅葺き屋根葺き替えイベントを 2日間開催した。

多くの方が茅葺き屋根吹き替えイベントに携わり
なんとか作業を進めることが出来ました。



イベント参加者の声

ありがたいことに参加者の皆様から、このイベントに参加して「楽しかった」「また来たい」という声をいただいています。今後のイベント開催の際にもこの声を忘れずに、安全で楽しいイベントを提供できるよう励みます。



チームの重大ニュース

ー男鬼の事業、継続 10 年を突破ー

参加者の皆様の支えあって、男鬼での活動は 10 年以上継続するプロジェクトとなりました。この折に、男鬼という地が建物の文化的な価値だけでなく、茅葺き屋根の葺き替え体験の場所としても価値を得てきたものとして実感しています。



活動の成果と課題

今年度のイベントでも多くの参加者のもと、男鬼の文化の保存に努めることができました。

しかし現在の男鬼の活動は保存行為にとどまっているので、今後は男鬼の地域をもっと活用できるような事業を展開していければと思っています。

2017
年
葺き
替
え
イ
ベ
ン
ト



Before



After



タクロバン復興支援プロジェクト

北部強制移住地 New Hope Village
教会兼コミュニティセンターの建設に向けて。

2017 年の活動として、現地の復興状況の調査、建設物の検討、建築物の設計とその実現に向けたモックアップの作成を行った。このように調査、計画、設計という流れを追って建設に向けて、地域住民と会話をしながら住民目線でプロジェクトを進行している。

復興の中で起きることを知る！タクロバン生活調査

復興から 4 年が経ち復興計画がやっと波に乗り、現地の状況はめまぐるしく変わるようになった。沿岸部の住人は北部の常設住宅に移りはじめ、タクロバンの景色が変わってきている。この状況下でタクロバンの 3 地点（沿岸部貧困層住居エリア / 北部強制移住地 / 中高層住居エリア）での生活状況の調査を行った。

住民の声から分かったことは、「北部の住居は内陸部に安全ではあるが、生活に必要なマーケットも教会も何も無い」ということ。街から遠く離れた強制移住先には、移住のための住宅だけ建てられ、公共施設の建設が間に合っていない、「買い物をする場所も無ければ、仕事をする場所もない」状況であった。ここで我々はこの強制移住地で何か街の力になる建物を建てようと思った、



北部強制移住住居の調査

建設物の決定的！NewHopeVillage に何が必要か。



現地住民と NPO との会議

活動の場所として、タクロバンの町から外れた強制移住区域の最北端に位置する NewHopeVillage を選んだ。この地は 3 地区から 1000 世帯が移住する土地であるが、入居が始まったばかりのこの土地には仮設の小学校があるだけで、街は閑散としている。この街に何かをつくることで生活を変えられないかと、住民への聞き込み調査・住人とのミーティングを行った。

必用なものを話している中で、人が集まって話し合いをする場所がない事と教会が欲しい事という住民の意見が出てきた。このからこの地で「仮設の教会兼コミュニティセンター」を建設する計画が出来た。土地は現地 NPO から借り、タクロバンの住人と共につくる建物を建てようという話が出来た。

地域と共にある建物を！
教会兼コミュニティセンター建設に向けて

建物の設計として、現地の強制移住住宅はコンクリートの家で今まで暮らしてきた彼らの生活の面影はない。建築学生である我々は、現地に存在したの風景をまとった建築をつくれなかったかと考えた。その中で現地にいる家具職人や漁師の持っている技術によって建築をつくりあげていく挑戦を始めた。

現地にある技術を使い、それを建築として成立させていく。その上で現地の技術をもつ職人や住人と共同し、原寸大のテストをつくり実現に向けて建設が可能か検討を行っていった。現地の人々の技術は我々日本人を驚かせる技術を持っており、学生一同勉強する機会となった。このようにテストを繰り返し現在建設に向かって走っている。



漁師たちとの屋根梁の作成テスト

プロジェクト概要

2013 年 11 月にフィリピン中部を巨大台風が通過した。レイテ島タクロバンは台風被害に加え、高潮の被害も受け膨大な被害を受けた。この巨大台風によって、高潮が発生し沿岸部貧困層居住地区の住居が流された。現地市役所はこの被災に対し沿岸部を住居禁止地区とし、半ば強制的に住民を街から外れた北部に移住させている。このような状況に対し我々は住民の目線で暮らしを見つめ、生活の調査・建物の建設を行う。地域の人たちと交流をし、調査・計していく過程でワークショップなどを行い、大学や住民を巻き込みながら建設することでコミュニティを育み、共に再建していくことがこのプロジェクトの目的である。

タクロバンの街と綺麗な原風景

我々の住民目線で活動を行う姿勢として、タクロバンの人の生活を知ることが重要である。そのことからプロジェクトの中で、住民生活に多く触れるよう住宅地の散策やお世話になっているフィリピン人の仕事先に付いて行ったりと、出来るだけ生活を垣間見えるようにタクロバンでの生活を過ごしている。その中では美味しいフィリピン料理を食べたり、大自然の原風景を見たりと生活を楽しくさせてくれる。



沿岸部の和気藹々とする生活

海の上での食事



大自然の中のフィリピンの原風景

2017 年度の成果と課題

今年度現地の調査から建設計画、そして設計案の作成と建設プロジェクトの実現に向けて一連の動きが出来たことが非常に大きな成果である。またその中で、フィリピンの NPO・現地コミュニティ・大学との交流を測りながらプロジェクトが進行できた。その中で多くの人・モノに触れ、日本には無い現地ならではのものを学とれたのでは無いかなと思う。

来年度に向けて、やるべきことは多くある。今年度計画してきた「仮設の教会兼コミュニティセンター」を建設するべく、プロジェクトを着実に進めていかなければならない。また被災から 4 年がたった今、過去にあった被災と復興の歴史をこのプロジェクトを通して、参加者が感じ考えるようにしなければならない。

2017年度
活動報告新聞「多賀町」の魅力をも
再発見・発信する

多賀町の魅力を発見し、イベントの開催・参加やフリーペーパーにより発信しています。リサーチすることで、町の人と新たな視点で多賀町全体を見つめ直すきっかけもつくります。

年間スケジュール

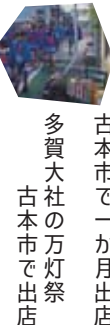
まちあるき

新生歓迎会

農家さんお手伝い
(田植え)

ギャラリー喫茶おとくら

古本市で一か月出店



多賀大社の万灯祭

古本市で出店

夏休み宿題お手伝い

in多賀八重練シエアハウス

農家さんお手伝い
(稲刈り)

ウモレボン市in護国神社

古本市で出店



神あかり

in多賀大社

飲食出店

多賀ふるさと楽市

子供向けの出し物

お多賀さんde朝市

古本市で毎月出店

ジャパンコーヒー

フェスティバルin多賀



ふるさと多賀の食まつり

郷土料理試食イベント

地域診断法

ワークショップ参加

in川相地区

多賀の情報発信誌

暮らしの図鑑 制作中

11月「ふるさと多賀の食まつり」

プロジェクト紹介

多賀町中央公民館運営準備会「多賀語ろう会」では、新しい公民館をまちづくりの視点で考え、建設準備段階から地域の方とともに学びあい、交流を深めながら会館に備える取り組みをしています。その一つに、多賀の「食」を記録し伝えるイベントを開催しようと、プレイベントとして今回の「ふるさと多賀の食まつり」を開催しました。



ちょっと聞いてよ！

プロジェクト自慢

レシピ動画 初制作
多賀の食を若い世代にも伝えるためには、簡単に見られて作りたくなるような、一品一分ぐらいのレシピ動画を作ると、TTPが制作しました。今後はネットやSNSでの公開も踏まえて、レシピの数も増やし、より魅力的な撮り方の研究も重ねていきたいと思っています。



多賀町生涯学習課 石丸茜さん
「多賀語ろう会」の活動で、SNSの活用など、学生の皆さんが得意とする分野で協力してもらえると、そして何より、継続して学生さんが参加してくれると大変嬉しく思います。若い力が加わると事業に活気が生まれ、地域の方もとても喜んでくださいます。職員としても、若い人に多賀町のこと、多賀町の人を知ってもらい、多賀町に縁のない人でも愛着を持ってもらえる嬉しいです。ぜひ、今後も一緒に活動を進めていければと思います。



6月「一箱古本市」

出店者を多賀町内・外から募り、段ボールひと箱分の古本を販売してもらうイベントです。

活動費を捻出する目的の他に、これを開催することによる、様々な人の交流の場となることも目指しています。彦根市内や、町外・県外からも出店者が集まるイベント「ジャパンコーヒーフェスティバル」や「多賀」や毎月開催される「お多賀さんde朝市」にも展開し、多賀を知るきっかけにもなっています。



10月「ふるさと楽市」

毎年10月に、多賀町の絵馬通りで行われる「ふるさと楽市」に出展者として参加し、多賀町内外から来る人たちの交流と、同じく出展されている方々との協力により、このイベントを一緒に盛り上げます。

やはり地元根付くイベントには多くの参加者もあり、TTPも例年通り子供向けの出し物で、楽しく参加し、多賀の人との交流も深まりつつあります。

ポスター・チラシ制作
ポスター・チラシのデザインを新しく、見やすく、かつ、若い世代にも注目してもらえようというのとTTPから提案した結果、「第12回多賀ふるさと楽市」のポスター・チラシのデザインを学生が初めて担当することになりました。



3月「暮らしの図鑑」

移住、農業体験、教育の対象になっていくような情報や場作りを「多賀暮らしの図鑑」プロジェクトとして来年度から始めようと、その試作版を製作中。今回は「ふるさと多賀の食まつり」を特集し、多賀のおかあさんレシピなど紹介できればと思います。



一年間の活動を通じた成果と課題

多くの縁に恵まれて

学生自ら進んで企画する活動より、元々あるイベントに協力するような形で動くことが多かったのですが、元々少人数であった「TTP」でも、活動が萎縮することなく、去年度よりも範囲を広げて積極的に活動できました。

また、「多賀語ろう会」への参加は、新たな分野への飛躍となりました。「ふるさと多賀の食まつり」というイベントをきっかけに動画作りにも挑戦したので、来年度は色々なデザインの手法やBGM動画などで、魅力を伝え続けます。

これまでの活動記録を公開中！



たけともミライ新聞

2018. 3. 31

発行者：たけともミライ
代表：千葉駿太郎
(環境科学研究科)

再始動の一年、結果は



本活動は今年度より、プロジェクト名を「たけとも、竹の会所・友の会」から「たけともミライ」に改め活動を継続してきた。刻一刻と状況が変わる被災地での活動を続けるにあたって、地域の方々とともに気仙沼の明るいミライを共に考えていこうという気持ちを含め、また、震災直後の活動開始時とは少しづつでも変わっていいこうという目標を含めて、団体名を改めた。たけともミライとしての最初の年の活動を振り返りながら、この一年の結果を考える。

春WSから行った「地域を知る活動」

ゴールデンウィークを利用し、春WSを開催した。今年度より、「地域を知る活動」を重点化することとし、春WSではまちあるきを行った。
津波被害がいまだに残る一方、インフラの復興がめざましい海岸沿いを歩きながら街並みの記録をとったほか、地域の方に資料館を案内していただき、気仙沼の戦前からの歴史に触れることができた。
参加した学生からは、「地域の古くからの歴史に触れ、さらに現状を知ることができた。地域のことを考えるきっかけを得ることができた」という感想を得ることができた。



↑まちあるきの様子。整備が進んだ海岸沿いを歩く。



↑まちあるきの様子。地域の方に郷土資料館を案内していただいた。

盛況だった春・夏まつり

昨年度までから継続して行っている活動として、春まつり、夏まつりが挙げられる。

今年度は、竹の会所にお借りしている土地に震災以前植えられており、津波で引き倒されてしまった御神木から削り出した大太鼓のお披露目や、活動開始から撮りためてきたこどもの写真を集めた「こどもの写真展」を開催するなど、地域の方々に協力いただきながら特徴ある企画を開催することができた。

夏まつりでの太鼓のお披露目では、地域の方々に多く集まっていたいただき、海の近くで太鼓の音色を楽しむことができた。こどもの写真展では、たけとも発足当時から撮りためた活動記録写真の中から、子どもが映っている写真を集めて時系列で竹の会所内に展示した。地元の子どもたちの保護者の方々からは、懐かしい写真も見ることができ、嬉しいという声もいただけた。

春・夏を問わずお祭りの日には今でも子供たちが遊びに来してくれるが、少しずつ人数が減っていることをここ数年は感じている。私たちにとっては少し寂しいことであるが、それは地域の中でほかに遊び場ができてくつあることを示しており、復興が進みつつあることを感じる。竹の会所の解体時期も迫っており、私たちの活動の終わり方考える時期に差し掛かっている。



→夏まつりにて、こどもの写真展の様子。



→夏まつりにて、御神木から削り出された太鼓をたたく子供。

たけとも春まつり概要
日時：2017年5月5日
参加人数：13名(学生)

たけとも夏まつり概要
日時：2017年9月17日
参加人数：15名(学生)

編集後記

わたしたちの活動は、もととは、震災でダメージを受けた地域に少しでも元氣を取り戻してほしい、そのための手助けをしたいという当時の学生の思いから始まったものである。

その思いは少しずつ形を変えながらも着実に受け継がれてきた。私もその思いを少しでも後輩に受け継いでいきたいと考えてきた。

春WSのあと、参加してくれた学生と話をしていたとき、「僕はここが好きになりました」と話してくれたことが印象に残っている。地域のことを好きになる学生が生まれるような活動をしてこれたことを誇らしく、嬉しく思った。

震災から時間が経過した今でもこの活動を支えてくれる幹部たち、そして誰よりも地域の皆様に感謝している。